



かせかけ

編集 沖縄県立看護大学
広報・情報専門部会
発行 平成21年10月1日



目次

- 島嶼環境での学びを沖看大のパワーに …… 2
- 離島実習に参加して …… 3
- 島嶼保健看護を学びはじめて …… 3
- 看護の女神に守られたオープンキャンパス …… 4
- 高校訪問(大学説明会) …… 4
- カウアイ・コミュニティー・カレッジ(KCC)からの研修生を受入れて …… 5
- ハワイからの声 …… 5
- 第11回 看大祭 …… 6
- 看大祭に参加して …… 6
- 新学生会長として …… 6
- 沖縄県立看護大学同窓会 統合記念総会を終えて …… 7
- エコ活動-ESCO事業を中心として- …… 7
- 平成20年度 沖縄県立看護大学 学長奨励研究報告会 …… 7
- 教職員の動き …… 8
- 新型インフルエンザにご注意 …… 8

「島嶼環境での学びを沖看大のパワーに」



沖縄県立看護大学
学長 野口 美和子

平成20年度に二つの“GP”が通りました。“GP”とはgood practiceの略です。各大学がそれぞれの大学の理念の実現に向けて、特色ある、かつ意欲的に、そして全学を挙げて取り組む教育活動に対して、文部科学省が審査した上で、助成金を出す委託事業制度です。とても競争率が高く、1

学部しかない単科大学で、同時に二つのGPが通ることは珍しいことです。それは、平成20年度質の高い大学教育推進プログラムに応募した「島嶼環境を活かして学ぶ保健看護の教育実践」と、平成20年度大学院改革支援プログラムに応募した「島嶼看護の高度実践者の育成」です。なぜ二つも通せたのか？一つは、いずれのGPも、沖縄県立看護大学の教育理念にまると沿った企画であったこと。もう一つは21世紀の看護、21世紀の人々の暮らし、21世紀の日本等21世紀を見据えた内容であったことです。それは考えてみれば当然のことです。本大学は開学時に島嶼県沖縄に看護大学をつくる意味をしっかりと論議されたので、教育目標もそれを反映したものになっているからです。

島は、島嶼は、沖縄は、そして離島は狭く閉ざさ

れているからこそ人々は知り合い、助け合っています。人々と看護職、看護職と他の多くの医療職や関係ある人々が折々に話し合い、繋がっているのです。これが命を守り、つながりを大切にする文化を育み、独自の暮らし、物事のやり方を導いています。四方を海に囲まれているからこそ、広く世界に開かれてきたことから、国際的視野、合理的考えが培われています。先端医療にアクセス出来ないからこそ、人々は自分達の力と数少ない医療職の能力を創造的に高めているのです。

日本の国は21世紀においてどのように歩むべきか。まずは、一番身近な東南アジア島嶼と再び手を携えてつながりの豊かな社会と人間性に溢れた文化を取り戻すことが目指されています。20世紀の間、西欧列強に並んで殖産興業し、古くから人々が往来してきた太平洋の島嶼国との関係を壊し、共に育んできた文化を蔑んできました。東南アジアの島嶼国との交流、文化再生の拠点として南島沖縄そして先島に期待が寄せられているのです。二つのGPの取組みはこの4月から本格的にスタートしました。学部学生の宮古島での実習は宮古島の住民ボランティアの方々から、熱く迎えられ導かれました。宮古島の看護職の方々からは多職種と連携し、住民と共に居る“島の看護”を学生達はゆっくり学んでいくでしょう。院生は島での看護実践を看護学的に研究し、台湾・ミクロネシアの看護職と交流し、これまで考えた事が無い様なしなやかで、やわらかい“南の看護”を世界に発信するでしょう。沖縄県立看護大学は21世紀の看護に道を開くOnly Oneになります。

★平成20年度質の高い大学教育推進プログラム

＜選定理由＞ 多くの島嶼からなる沖縄県における教育では、島嶼における保健と看護を適切に位置づけることが必要である。このプログラムは、那覇市にある沖縄県立看護大学が、離れた島嶼部に学生を連れていき、島嶼地域での保健と看護を体験させることを目的とするもので、地域における大学の役割と保健と看護のあり方をよく考慮した優れたものである。その実施のため、大学と地域医療施設との連携が事前に準備され、また、ICTの活用も図られている。学生は、このプログラムに参加することによって、当該地域での保健と看護の問題を敏感に意識する機会を得ることができるだけでなく、それぞれの地域のもつ衣食住などの文化と医療の関係を考える機会も得ることができる。今回は交通、通信、規模の観点から、宮古島が実習の場に選ばれているが、将来は、より小さなコミュニティーやより離れた地域での問題に学生の目を向けさせるために、プログラムを拡大、発展させることが期待される。

★平成20年度大学院改革支援プログラム

＜採択理由＞ 大学院教育の実質化の面では、ファカルティ・ディベロップメントの実施体制が整っており、特に県内看護職のリーダーと共に看護学教育に関する学習を行う「ナーシングリーダーシップ会議」は優れた取組である。また、夜間及び休日の集中授業体制を採用するなど、社会人学生に対する修学上の配慮がなされている点も評価できる。教育プログラムについては、「島嶼の看護活動と多職種連携活動を担う高度実践者、実践的教育研究指導者」の育成という目的が、大学の使命に沿ったものであり、島嶼地域の文化に根ざした取組として高く評価できる。また、既に島嶼地域で活躍している看護職との連携が図られており、当該地域に特有な現場の問題を取り上げて多職種と協働して解決するアクションリサーチを主とした課題研究等の取組の実現性と実効性が期待できる。ただし、対象となる大学院生の範囲が限られているため、今後、専攻全体への波及効果を高めるための工夫が望まれる。

『離島実習に参加して』

原 久美子 (3年次)



前列右端が原久美子さん

今回、初めての離島実習でしたが、ボランティアの方々の協力もあり、ある程度環境が整っていたため、不便さは感じられませんでした。

実習期間中、私達実習メンバー5人は、ほぼ毎日、24時間一緒に過ごしていました。実習前は、5人での共同生活がうまくいくか心配でした。しかし、実際はこの5人であったから、今回の実習を成功させることができたと感じています。

一緒に過ごす時間が多かったため、実習時間外にも受け持ち患者の情報交換ができ、お互いに多くの情報を共有することができました。そのため、対象の状態をイメージしやすく、最終的には、1人の対象について担当学生を中心に、実習メンバー全員で考え、チーム看護の視点で取り組むことができたのではないかと思います。

離島実習は環境も異なり、費用もかかるということで敬遠されがちですが、離島実習だからこそ得られるものもあるので、積極的に参加して欲しいと思います。

島嶼保健看護を学びはじめて

沖縄県立看護大学大学院島嶼保健看護学 博士後期課程 知念 久美子



大学を卒業後、私は県立宮古病院に3年間勤務しました。大学在学中から離島の看護に関心があったのでとても貴重な時間を過ごすことが出来ました。その時、「住民の力(みんなが頑張る・支えあう力)」が強い、そして住民が島の文化をととても大切にしている事に強く惹かれました。その「住民の力」はどこから出てきているのか？その問いの答えが見つからないままです。しかし、今回島嶼保健看護を学びはじめて、島嶼ならではの文化が住民の健康意識や行動に影響

している。そして今まで感じていた「住民の力」の源は、島嶼ならではの文化や生活の中から生まれているものであると改めて感じました。また、島嶼で働いている保健看護職者は、専門職でもあり、島嶼住民の一員でもある。このことを考慮し、島嶼で暮らす住民の視点、島嶼で働く保健看護職者の視点から、今後、島嶼ならではの「住民の力」をより発揮できる看護とは何かを探究していきたいと思っています。



★新たな“GP”への取組

平成21年度大学教育充実のための戦略的大学連携プログラム(文部科学省補助事業)で「看護系大学から発信するケアリング・アイランド九州沖縄構想」が新たな事業として選定されました。この事業は、九州・沖縄の看護系等13大学が連携し、「ケアリング溢れる九州・沖縄」を長期ビジョンとして、教員、指導者の教育力開発、学生の卒業サポート、講義の相互受講体制の構築、相互学習の場の形成など、課題解決のための取組を共同で開発・実践するものです。

看護の女神に守られたオープンキャンパス

広報・情報専門部会 井上 松代



去る8月8日(土)、『沖縄県立看護大学オープンキャンパス2009』が、台風8号や新型インフルエンザ流行の心配される中、昨年の242人を上回る278人の来場者を迎えることができました。看護の女神に守られて無事に開催されたものと教職員一同喜んでい

ます。

例年好評の『個別進学相談』や『各種体験コーナー』、『在校生とのフリートーク』などに新たに『卒業生とのフリートーク』と『ハワイセミナー展示』を加えた18のメニューを用意しました。中でも大人気だったのが『学長とお話しましょう』で、200名を超える人が視聴覚室に集まり、「看護の魅力は?」、「実習でうれしかったことは?」などの質問に笑顔で答える野口学長と、目を輝かせて話を聞く高校生らのエネルギーが会場を熱く盛り上げていました。



高校訪問(大学説明会)

広報・情報専門部会 新城 正紀



2009/09/17 豊見城南高校説明会風景

本学の教員が県内の各高校を訪問し、高校生を対象に本学の教育理念、カリキュラムの体系、入学

選抜実施要項、卒業後の進路等についての説明会を実施しております。本説明会は、高校生の進路決定の一助になることを願い企画されています。

今年度も5月に各高校の校長宛てに説明会の依頼文を発送し、説明会の希望の有無と説明会参加予定の生徒数の回答をいただき、6月22日から9月30日の間に説明会を開催しました。説明会を実施した高校36校、説明会に参加した高校生407人(延べ)、高校訪問して説明した本学の教員数は45人(延べ)でありました。

<平成21年度後期の主な大学行事>

- | | |
|----------------------------|--------------------------------|
| 10月1日(木) 後期授業開始 | 2月9日(火) 社会人特別選抜・一般選抜入試(別科助産専攻) |
| 11月21日(土) 特別選抜入試(看護学科) | 2月25日(木) 一般選抜入試(前期・看護学科) |
| 11月21日(土) 推薦選抜入試(別科助産専攻) | 3月5日(木) 学位論文公開発表会 |
| 12月22日(火) 卒業論文発表会 | 3月12日(金) 一般選抜入試(後期・看護学科) |
| 12月25日(金)~1月7日(木) 冬季休業 | 3月15日(月) 卒業式 |
| 1月8日(金) 授業開始 | 3月15日(月)~3月31日(水) 春季休業 |
| 1月16日(土)~17日(日) 大学入試センター試験 | |

カウアイ・コミュニティー・カレッジ(KCC)からの研修生を受入れて

国際交流室運営委員会 大川 嶺子

2001年、本学とハワイ大学は「学生、教員および職員によるヘルスケア、言語および文化における相互交流」協定を締結しました。以来本学は、毎年学部学生を3週間のハワイ研修に送り出しています。学生達は、ハワイ大学傘下のカウアイ・コミュニティー・カレッジ(KCC)とハワイ大学マノア校での英語学習、ホームステイ、および保健看護に関する授業を経験し、ハワイのらびとに直接触れる中で多くのことを学んで帰国します。

協定締結当初からハワイ大学学生の本学での研修受入も期待されていましたが、2009年3月にそれが実現しました。期間は、3月20日から28日までの8日間、参加者は看護学部学生2人、看護学部長を含む引率教員2人および関連病院看護部長1人の計5人でした。

研修では、日本の医療制度についての講義や医療保健施設の見学、学生の三味線サークル・茶道サークルへの参加、県内文化施設および離島の訪問、ホームステイ、歓迎会・修了式などが行われました。また自由時間には、昨年度ハワイ研修参加学生による南部地域案内も行われ、短い期間でしたが、研修生と本学学生・教職員の相互交流が活発に行われた、楽しい研修でした。

研修生は今回のプログラムでの学びに満足して帰国しました。引率のKCC看護学部長からは本研修プログラムを隔年で実施したいとの申し入れがあり、今後も継続する事になりました。次の実施は2011年3月です。学生・教職員の皆様のご協力をお願いします。



交流会の様子



久高島訪問



修了式



修了式参加者と記念撮影

ハワイからの声

新垣 真澄 (三年次)

9月7日(月) ALOHA!

私たちは昨日オアフに着きました。カウアイとは違って、日本人を多く見かけることに驚きです。

ところで、カウアイでは病院視察や英会話の講義、ホームステイなどがあり内容の濃い2週間でした。忙しい毎日でしたが、とても満足の日々を過ごすことができました。それは、KCCの方たちの想像以上の温かいサポートがあったからです。

ほんとに感謝の気持ちでいっぱいです。私たちはオアフに来て改めてそのことを実感しました。

カウアイの人達からもしきりに、オアフでは“Be careful”と言われてきたので、そのことを忘れず安全な生活を送れるよう気をつけていきたいと思いますo(^▽^o)♪

それではまた!

AHUIHO(^▽^)/



第11回 看大祭

実行委員長 上地 雄己(二年次)



僕が医療・看護に興味を持ったのは高校2年生の時でした。現代の人手不足の現状に自分の正義感が掻き立てられ、医療・看護の道を目指そう

と決意しました。健康な人が多く、自分が生まれ育った沖縄で進学したいと思い、沖縄県立看護大学に入学しました。大学の学習は大変ですが先生、先輩方のサポートも熱く、優しくて、とても恵まれた環境にいます。

僕は今年の看大祭の実行委員長を務め、看大祭を無事に成功させることができました。このように学習面だけではなく、学生会活動も盛んなところが本学の魅力であると思います。

現在、仲間と協力し合いながら将来の目標に向かって日々学習に励んでいます。看護とは一つのチーム

です。みなさん、僕たちと一緒に看護の環を形成し一丸となって共に学習していきましょう。



看大祭に参加して

別科助産専攻 砂川 唱子



私達、別科助産専攻の学生にとっても、看大祭はとても新鮮でワクワクする行事でした。日頃ほとんど交流の無い学部生と準備段階から関わることができ、当日もお互いのブースに参加し合うことで学部生との距離が少し縮まりました。

また私達のブースでは、助産師の仕事の紹介を始め、生命の成り立ち、母乳育児や乳ガンについて展示し、当日は多くの学生や地域の方々にご来場いただきました。ある母親は小学生の娘にパネルを見ながら、その子の生まれてきた日のことを話し、子どもは少し照れくさそうに母親の話聞いていました。看大祭

では多くの場所でこの親子のように、自分のそして家族の健康について考え、お互いの存在を再確認している姿が見られ、地域における看護大学の役割を考えさせられました。

テストや課題で忙しい日々の中、仲間みんなで協力し、そして看大祭実行委員の方々に沢山お世話になって作り上げた学生最後の看大祭、とても思い出深いものとなりました。



新学生会長として

学生会長 請舩 亮太郎(二年次)



今年度の沖縄県立看護大学、学生会会長に就任いたしました請舩亮太郎です。学生会では、主に大学でのイベントの企画・運営、サークル活動の推進、学生会の予算案編成などを行っています。今年度の学生会の目標として『チャレンジ精神とチームワークを大切に、何事にも一生懸命取り組み、最高で実りのある1年にする』を掲げ大学の活性化に励んでいます。また、球技大会やサークル活動を通し学年を超えた学生間や教職員、地域の人々

との交流をより一層深め、楽しく快適な大学の雰囲気づくりを図っていくこと、そして、学生一人ひとりが自ら積極的に個性を活かすことで人と人との関わり合いが広がっていくことを目指しています。昨年は、創立10周年を迎える節目の年でもありました。たくさん先輩方が積み上げてきた功績を大切に、これからの看護大学に必要なことを創造していきたいとともに、次なる歴史への第一歩として大学をあげて頑張っていきたいと思っています。学生会一同、日々活動に励み、より良い大学づくりを目指し頑張っていきたいと思っています。

沖縄県立看護大学同窓会統合記念総会を終えて

「初めまして どうぞよろしく」

去った平成21年7月4日、当看護大学に於いて「沖縄県立看護大学同窓会統合記念総会」が県福祉保健部長をはじめ来賓多数をお招きし、102名の会員参加のもとに開催され、新しい同窓会がスタートしました。

沖縄県立沖縄看護学校同窓会と沖縄県立看護大学同窓会の統合によるこの新しい同窓会は、1946年創設の病院附属看護婦学校1期卒業生より、2009年看護大学7期卒業生までの60年余に亘る沖縄の看護教育と共に歩んできた二つの同窓会の歴史を継承し、卒業生9千余名の大きな組織へと発展する事になりました。

当会は、「会員相互の親睦を図り、大学の発展を図ると共に沖縄県における看護の向上に寄与する」ことを目的としています。

在学中は経験することの少ない先輩・後輩との交流、卒後は母校や在学生との交流の場となり、また、看護

沖縄県立看護大学同窓会 会長 高良 弘子

学校の卒業生にとって、当会は母校にも等しく、若い会員との交流は未来への希望が膨らみます。

今後の活動としては、両同窓会の事業を引き継ぎ、主に在校生への支援活動並びに当会の体制創りから始める計画です。当会が活動するためには卒業生の皆様の協力が最も重要であり、今後一層のご協力をお願い致します。私達、理事、役員一同も目的に副うため、誠心誠意努めていく所存であります。尚、同窓会事務局は当大学の1階に在り学内に担当の者がおります。

大学当局並びに会員・学生の皆様のご指導、ご支援をよろしくお願い申し上げます。



役員紹介	
副会長	安里明友美 久場 常子
事務局長	並里 紀子

エコ活動—ESCO事業を中心として—

総務課長 山城 正和

沖縄県立看護大学では平成20年度からESCO (Energy Service Company) 事業による省エネに取り組んでおります。これは、契約期間を13年とし、ESCO事業者一本学の場合は(株)東芝ほか4社がその費用負担で大学内の省エネ設備を設置・運用し、大学が削減された光熱水費の範囲内で報酬を支払うというエコ活動です。

その概要は、

- (1) エアコンのガスヒートポンプ(GHP)の省エネ型への取替。教室冷房運転のプログラム化・事務室での集中管理による消し忘れやカラ冷房の防止
- (2) 給湯設備・照明安定器の省エネ型への取替
- (3) トイレの手洗いの自動化。節水型のフラッシュバルブへの切替

というものです。平成20年度は、教職員ならびに学生

の皆様のご協力により削減目標を達成することができました。ご協力誠にありがとうございました。

その他、大学では、図書館西側窓にパッションフルーツを這わせ、西日を和らげることができないか試行しており、結果がよければ図書館の西側の窓全体を「緑のカーテン」で覆い、冷房経費の節減を図りたいと考えています。



平成20年度 沖縄県立看護大学 学長奨励研究報告会



日時：平成21年5月15日(金) 場所：本学視聴覚室

研究テーマ	研究代表者
「大学と実習先との協働による看護実践能力向上の試み(第2報) 一処遇困難事例の事例研究の評価一」	講師 佐久川 政吉
「離島における慢性疾患患者の在宅療法を支援する地域医療連携に関する研究一患者支援の現状を中心に一」	助教 宮城 裕子

教職員の動き 平成21年4月1日(就任・転入)



金城 芳秀
学生部長

私はふだんの生活の中で“五事を正す”を心掛けています。五事とは、なごやかな顔つきをし、思いやりのあることばで話しかけ、澄んだ目でものごとを見つめ、耳を傾けて人の話を聴き、まごころをこめて相手のことを思うことです。新米の学生部長(私)にとって、一日一日が修行です。



嘉手苺 英子
附属図書館長

就任して実感しているのは、大学の知的活動を支える図書館が図書館員の目立たない地道な業務によって維持されており、それと共に活発な利用者の存在が図書館機能を高めるといことです。県内唯一の看護大学附属図書館としてより一層充実させていきたいと思っています。



野村 幸子
准教授

4月より小児保健看護関連科目担当として着任しています。沖縄の文化である“ゆいまーる”精神と看護の関連に関心があります。患者さんにとって的確な判断のできる思いやりのある優しい看護師を育てるよう皆さんと共に歩んでいきたいと思っています。どうぞよろしくお願い致します。



田場 由紀
助教

4月から本校に就職し、半年が経過しました。まだまだ初めての連続です。手探りの毎日ではありますが、新しい環境で、たくさんのごことを吸収しつつ、沖縄県の看護に貢献していきたいと考えています。



伊牟田 ゆかり
助手

本学卒業後、4年間の看護師経験を経て、2009年6月より成人保健看護の助手として着任しました。学舎で勤務するというにまだ不思議な感覚がありますが、学生との関わりを通して、教育さらには研究という新たな役割が身につけられるよう努力していきます。どうぞよろしくお願い致します。



上原 梨那
助手

4月に小児保健看護の助手に着任しました。本学の4期生として学び、卒業後は小児看護師として勤務していました。臨床での学びや小児看護のおもしろさを、学生に伝えることができればと思います。教育・研究者として新人ですが、どうぞよろしくお願い致します。



鈴木 ミナ子
助手

今年4月から、小児保健看護の助手として着任した鈴木ミナ子と申します。琉球大学医学部保健学科を卒業後、同付属病院に勤務しておりました。これから関わること多くの学生達に、臨床看護の魅力を伝えていけたら良いなと思っています。よろしくお願い致します。



山城 正和
総務課長

平成20年4月から学務課長を務めてきましたが、今年度の人事異動で総務課長を命じられました。学務課は学生の皆さんに対して直接諸々のサービスを提供しますが、総務課は教育上の諸条件を整備することを通して学生の皆さんを間接的に支援します。総務課の業務は多岐にわたりますが、可能な限り学生の皆さんの身になって業務を進めていきたいと考えております。



伊敷 健伸
学務課長

看大生並びに教職員の皆様、本年4月の定期人事異動で福祉保健部高齢者福祉介護課から異動になりました伊敷です。大学では、学務課長を拝命しておりますが、これまで看大祭やオープンキャンパスを無事に終えたところです。今後、教職員の協力を得ながら、与えられた職務を確実に勤め上げていきたいと思ひます。宜しくお願い致します。



宇根 良享
主任

初めまして。4月より学務課で勤務しています。那覇港管理組合からの異動となりましたが、全く異なる業務内容に奮闘中の毎日です。学務課では学生の皆さんと接する機会も多々ありますので、今後ともどうぞよろしくお願い致します。



石川 洋幸
附属図書館主査

皆様、今日は。私はこの3月に定年退職した後、再任用され勤務させていただいております。図書館の業務以外に、文科省の委託事業の大学院博士前期課程入学準備プログラムの事務を担当しております。今後とも皆様の協力を得ながら、自分の役割を果たしていきたいと思ひますので、よろしくお願い致します。

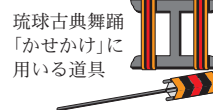
- 定期人事異動(転出) 総務課長 具志堅 健
- 定年退職 (H21.3.31) 主幹 幸地 哲 (H21.4.1 再任用)
- 退職 (H21.3.31) 助手 久具 千秋
- 助手 松田 梨奈

☆☆ 新型インフルエンザにご注意 ☆☆☆

今般の新型インフルエンザについては、これから秋口以降、さらに感染が拡大することが心配されます。繰り返し言われていることですが、最も効果的なことは感染防止対策を一人ひとりが自覚を持って実践することです。「手洗い、うがいの励行」「症状が出たときのマスク着用」「人混みの多い場所への外出自粛」など改めて認識し、感染は自分が止めるという気持ちを持って、乗り越えていきましょう。今後ともご協力をお願いいたします。

事務局長 有銘 政勇

かせかけとは、琉球古典舞踊女七踊りの一つです。総とは紡いだ糸を巻く道具で、総掛けとは布を織る糸をこしらえている様子を指しています。この踊りのように丹念に糸を紡ぎ布を織って着物に仕立てていく、その一途の心と「技術」・「感性」は、「知識」の継承・創出とともに、本学の看護職者を生み育てる教育・研究の原点に相通するものであろうと、広報誌の名称にしました。



編集後記

人口の減少や財政の制約など大学を取り巻く厳しい状況の中で、公立大学のプレゼンス(存在感)の向上を図るためには、教育の質、研究水準の向上、多様な地域貢献を果たすことと併せて大学情報の発信がこれから一層重要になっていくと考えます。小さな冊子の「かせかけ」ですが、学生の学びと学園生活を基本軸に置いて、生きた広報誌づくりを目指したいと思ひます。(広報・情報専門部会)

沖縄県立看護大学

〒902-0076
 沖縄県那覇市与儀1丁目24番1号
 TEL(098)833-8800(代表) FAX(098)833-5133
<http://www.okinawa-nurs.ac.jp>